

2018年
12月号
付録



原水協通信

福島県版
原水爆禁止福島県協議会
〒960-8103
福島市舟場町3-26
青年会館内
Tel/Fax 024-522-6519

◆全国の皆さんに感謝！

日本原水協が被災地の学校にちひろカレンダー贈呈



いわき市四倉中学校で
「原爆組写真」を贈呈
する安井事務局長



富岡小中学校のペッパー君



いわき海星高校で

東日本大震災と原発事故以来、日本原水協は全国に呼びかけて募金を集め、ちひろカレンダーを東北や熊本、豪雨災害に見舞われた広島に届ける活動をしています。今年も福島県を訪問し、富岡第一小中学校、ふたば未来学園、四倉中学校、いわき海星高校に合わせて700名の子どもたちにちひろカレンダーを届けました。(詳しくは「原水協通信」12月号8面に掲載)

参加者は、日本原水協安井事務局長、自交総連東京地連青年部から3名、大阪、東京、神奈川から各1名、福島県原水協からは、案内役の井田さん(いわき)、大内さん(相双)、代表理事の二階堂、石堂(事務局)でした。

震災と原発事故後、十分な環境が整わない中での教職員や子どもたちの大変さをはじめて直接聞いたという青年は、「まだまだ原発事故は終わっていないと感じた」「原発再稼働はゆるさない」など感想を述べていました。

数日後、四倉中学校から「ヒバクシャ国際署名」25筆が県原水協に届けられました。

◆前川喜平氏講演会(伊達市)から

11月7日、伊達市で、元文部科学省事務次官の前川喜平氏を講師に講演会が開かれました(主催:前川喜平講演会実行委員会)。一人ひとりの人権が保障される社会が大切だという前川氏は、講演の中で「核兵器禁止条約」を拒む日本政府について、「いま非核3原則を改めて議論し、実践すべき」「理想を持たない現実主義ばかりでは、政治は堕落する」と、アメリカの「核の傘」に頼り、北朝鮮の脅威ばかりを強調する日本政府の姿勢を批判しました。

◆メッセージ添えて

喜多方市議会議員より署名続々届く。

喜多方原水協は、喜多方市議全員(25名)に「ヒバクシャ国際署名」の用紙を送り、署名を呼びかける活動を11月から開始しました。そして11月下旬までに、福島県原爆被害者協議会へ11名の署名が届けられました。またメッセージも寄せられました。

<メッセージ紹介>

- ・非人道的な核兵器の絶滅を求めることは被爆国日本の当然の使命と考えます。
- ・被爆者の苦しみは本人しかわからないと思われまふ。この署名でお役に立てればと記載しましたが、世界の核兵器産業が絶滅されなければ平和は期待されません。いつか報われることを祈ります。
- ・今年の7月に広島を訪問し、岩波ジュニア新書『被爆アオギリと生きる』を購入し、読みました。沼田さんの生き方に共鳴を覚え、二度と戦争を起こしてはならないと決意をしました。
- ・核兵器の禁止と廃絶は全ての人間の願いです!
- ・目的達成のため頑張ってください!

◆被爆者援護・連帯強化旬間(11/20~12/10)

☆学習会 「これからの被爆者援護・連帯を考える」

とき: 12月15日(土) 13:30

会場: 二本松市男女共生センター 第1研修室

講師: 齋藤 紀氏(わたり病院医師)

※被爆者の願いにこたえる活動とは? 「被爆者援護法」をあらためて学び考える学習会。「原水協通信」読者の皆さん、是非ご参加ください。



☆募金にご協力ください。

福島県原水協は、県内の被爆者の会(福島県原爆被害者協議会)に長年ご協力をいただき、被爆体験をお聞きしたり、平和行進にご参加いただいたりしてきました。

しかし、会員の高齢化が進み、財政も厳しい状況にあります。会の活動を支えるために、募金を呼びかけています。ご協力よろしくお願いたします。

【募金送り先】

郵便振替口座 02140-8-8618 (口座名) 福島県原水協

東北労働金庫福島支店(普通) 3093921 (口座名) 福島県原水



<編集部より>

早いもので2018年もあとひと月。皆さんにとって今年はどうな一年でしたでしょうか。

来年は、参議院選挙が平和行進の時期と重なるなど、忙しい年になりそうです。皆さん、健康で良いお年を迎えてください。